





2023年度日本新聞販売協会賞



26氏が栄えある受賞

- 記念式典の冒頭、2023年度「日本新聞販売協会賞」の授賞式が行われ、受賞者26名(欠席者含む)に賞状と記念品が贈られた。
受賞者は次の方々(敬称略)。
北海道地区
▽古村英樹(北海道)
▽東北地区
▽渋谷俊郎(読売)
▽関東地区
▽小林秀臣(埼玉)
▽都司圭一郎(千葉)
▽読売・合売
▽三森由春(茨城)
▽毎日
▽岸政通(新潟)
▽読売
▽三井
▽公(山梨)
▽合売
▽三枝
久人(山梨)
複合▽外山雅通(静岡)
読売
【東京地区】
▽黒崎雄一(朝日)
▽菅野正大(朝日)
▽小川義行(読売)
▽福田憲治(日経)
▽澤田明雄(産経)
▽梶山昌夫(東京)
【多摩地区】
▽原田忠義(多摩)
読売
▽藤井孔明(読売)
読売
▽掛川保之(読売)
朝日
▽毎日
▽阿部茂伸(朝日)
読売
【中部地区】
▽浅野孝助(朝日)
【近畿地区】
▽浜田隆義(朝日)
▽阿部喜(毎日)
▽薄川保博(読売)
▽立松英樹(産経)
▽西山徳夫(京都)
▽中安克文(神戸)

特別功労賞・山田貞夫氏、渡部俊美氏、功労賞・東靖雄氏



特別功労賞の山田前副会長(右)と東前会長



特別功労賞の渡部前事務局長(右)と東前会長



功労賞の東前会長(右)と岩城会長

山田 貞夫氏
1996(昭和61年)常任理事に就任後、1990(平成2年)から副会長。その間、15人の会長をサポート。販売正常化、再販存続問題、組織拡充

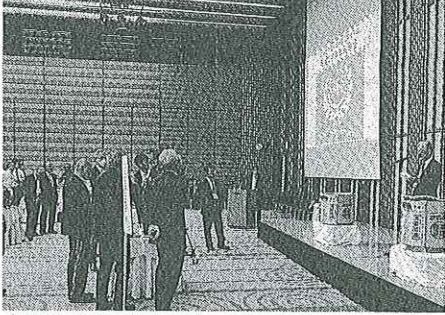
強化など幅広く日販協活動を支えた。新聞業界の歴史に明く業界の発展に尽力。日販協を思ふ熱意と提言と行動は数多の場面で協会運営の指針となった。2013(平成25)「瑞宝章」受章。

渡部 俊美氏
1988(昭和63)年入局。企画開発課長、事務局長。1998(平成10)年に事務局長。2013(平成25)年に公益社団法人に移行と同時に

に常務理事を兼任。34年にわたる組織運営に取組む。地方組織や各新聞組織、各発行本社、新聞団体、関係官庁等関係各方面への働きかけは、組織の充実と日販協への理解に大きく寄与した。

東 靖雄氏
2016(平成28)年に第33代会長に就任。2018(平成30)年に副会長に就任。新聞力広報委員会委員長として、「すべての教室へ新開」運動の推進に努

めた。2022(令和4)年に第34代会長に就任。公益的事業の展開を活動方針に掲げ、配用バイクの電動化への販換事業、被災地支援、過疎地対策などを積極的に推進した。



祝賀会の席で退任のあいさつをする山田前副会長

山田氏退任あいさつ

私は昭和61年、第14代の相沢厚生会長の下で常任理事に就任。平成23年と10、11年の4年間は副会長兼近畿地区本部長を務めた。第19代の市川花雄会長の強い要請により平成6年に全国本部専任の副会長に就任した。

ここで副会長就任後の心に残った思い出を語りたい。平成8年4月、市川会長が中心となり「政治連盟」が設立された。市川初代理事長は「法的な条件のもとで、きちっとした政治活動をする」とを基本理念に掲げ、確かな組織と運営費を確立しなければ政治連盟の発展は難しいとの思いから、現在のよう個人会員から会費を納めていただけに、運営を強化するのと同じく、諸問題解決に積極的な活動を推進してきた。



中村新聞協会会長(中央右)と岩城日販協会会長(同左)

第22代の山田健雄会長も思い出に残る方だった。すべての教室へ「新開」運動は、山田会長の呼びかけで始まった。山田会長は、次世代研修会も立ち上げ、第27代の坂本収会長をはじめ本部執行役員や地区本部長などを務める業界のリーダーとして活躍した。日販協は内閣府認定の法人の一つとして、今後も3年ごとに厳しい監査を受けている。変わりゆく時代に絶えず足元を見つめながら、将来のあるべき販売店を築く。松本山として日販協と新聞業界がますます発展することを祈念する。

記念誌「日販協70年の歩み」刊行
日販協はこのほど、「全販連」の時代から設立70周年を迎えるに、日販協の発足、日曜夕刊廃止、労務改善、販売正常化、再販制度堅持等々諸問題解決に立ち上がった先人の活躍を顕著な写真付きで紹介。また、日販協役員を退任した山田貞夫前副会長が、「新聞販売よもやま話」と題し、戦後の新聞販売と日販協を作った先人の思いをつづった。A4判、オールカラー。47ページ。

私には、新聞とインレットパーとの文化の違いがあつた。500人を超える方が署名してくれて、今日も再販制度は守られている。田窪会長はこれらのことを踏まえ、政治連盟をさらに強力なものにするの決意から、当時の小淵外務大臣に昼食を挟み時間をかけて懇話会会長就任を求めた。小淵大臣は「や」と重い腰を上げてくださったに就任された。以後、日販協が抱える諸問題解決に尽力いただいている。

が「新聞とインレットパーとの文化の違いがあつた」と、新聞の規制緩和を強く求めた。「賛成」「反対」の意見も発行本社代表と販売業者代表として田窪会長が出席した。小委員会の座長を務めていた宮内義彦オリックス社長(当時)が「賛成」との文化の違いがあつた。500人を超える方が署名してくれて、今日も再販制度は守られている。田窪会長はこれらのことを踏まえ、政治連盟をさらに強力なものにするの決意から、当時の小淵外務大臣に昼食を挟み時間をかけて懇話会会長就任を求めた。小淵大臣は「や」と重い腰を上げてくださったに就任された。以後、日販協が抱える諸問題解決に尽力いただいている。